

感熱センサスイッチをお買い求めいただき、誠にありがとうございます。

事前に必ずこの取扱説明書を参照の上、正しくご使用ください。（本製品の取付は電気工事士の資格が必要です）

安全上のご注意（お使いになる方や他人への危害と財産の損害を未然に防ぎ、商品を安全にお使いいただくために、重要な内容を記載しています）



警告 この表示の欄は「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。

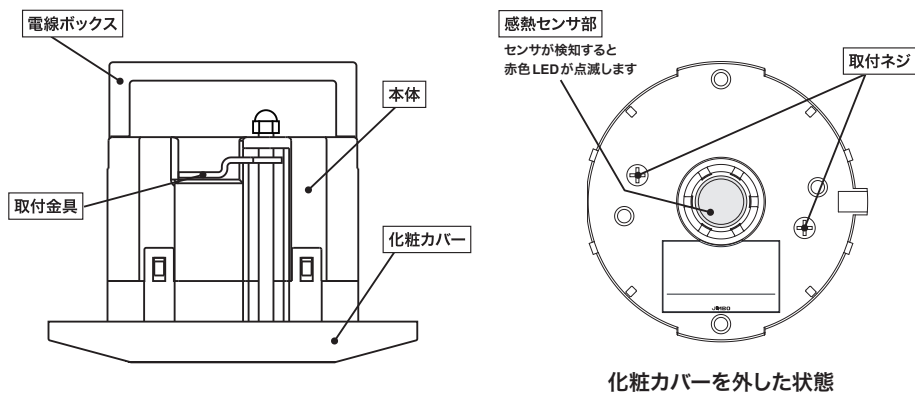
- ・施工時または点検時には必ず主幹ブレーカおよび主電源を落としてください。通電状態で施工または点検は、感電や短絡の原因になります。
- ・水などをかけないでください。感電や火災の原因になります。
- ・照明器具や換気扇のお手入れは、必ず親器の「動作時間調整つまみ」を「切」に切り替え、本製品の検知動作を停止してください。
- ・検知動作を停止しない場合、感電や怪我の原因になります。
- ・高圧洗浄機などを使用して本製品を清掃しないでください。感電や火災の原因になります。



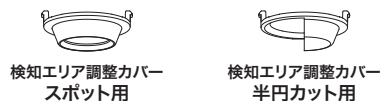
注意 この表示の欄は「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

- ・本製品は屋内天井と直接雨のかからない軒下専用です。防水構造ではありませんので、直接雨や水のかかる場所、浴室などの環境では使用しないでください。
- ・感熱センサスイッチは、検知エリア内での人体と周囲の温度差（約3℃以上）を検知して動作します。真夏や真冬など温度変化（温度差）が小さい場合には検知しにくくなりますが異常ではありません。
- ・気密性の高い建物の場合は、ドアの開閉で生じる気流等に反応する場合があります。
- ・本製品の初回通電時に約30秒間の通電動作を行います。また、停電復旧後においても同様に通電動作を行います。
- ・検知レンズが汚れた場合は、柔らかい乾いた布で傷をつけないように表面を清掃してください。（検知レンズが劣化する原因になるため、薬品や洗剤での清掃はしないでください）
- ・感熱センサスイッチの交換時期は、約8～10年が目安です。使用環境や使用状況によっては照明器具の寿命が短くなる場合があります。性能維持・確認のため、定期的な点検をお薦めします。点検・交換は電気工事店にご相談ください。

感熱センサスイッチ各部名称



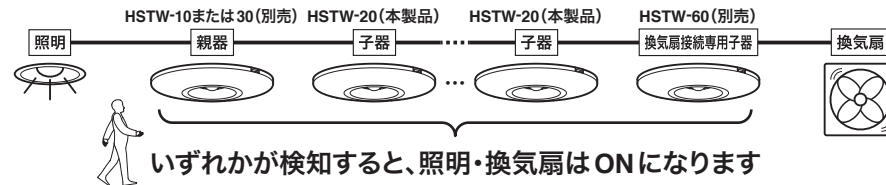
付属品



感熱センサスイッチの基本動作

本製品は適合する親器との組合せで動作します

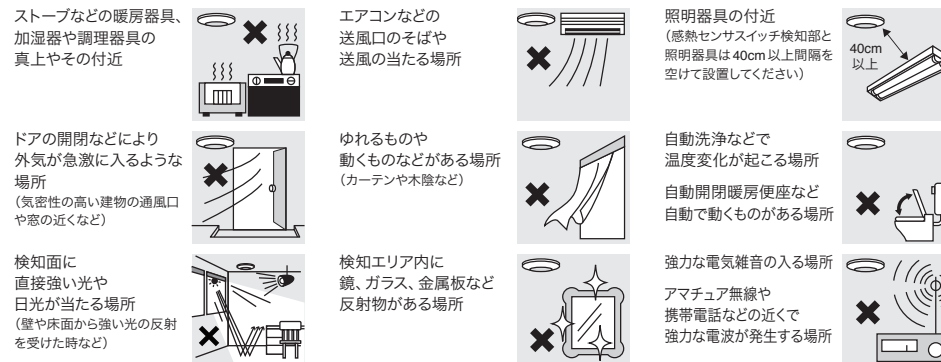
本製品を**単独で使用することはできません**。子器は親器の設定に従って動作します。
また、**子器は最大で12台接続できます**が、そのうち換気扇接続専用子器は1台のみ接続できます。
（親器および換気扇接続専用子器の使用方法は、各製品の取扱説明書を参照してください）



感熱センサスイッチの動作特性について

感熱センサスイッチは人の動きなどによる3℃以上の温度変化を検知します。
以下のような場所に設置されている場合、センサが誤動作したり、検知しにくくなる場合がありますが、故障ではありません。

センサが誤動作する例（人が居なくても検知動作してしまい照明が点灯/消灯を繰り返す、など）



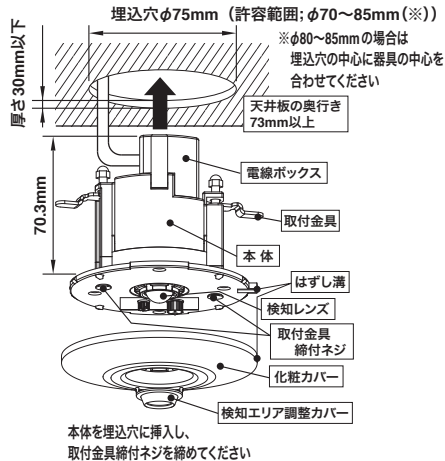
人の動きを検知しにくい/検知しない例（センサの特性から検知しづらい、など）



感熱センサスイッチの取付方法

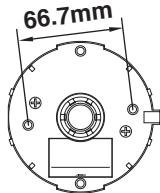
ボックスレス工事

天井板厚 30mm 以下、天井奥行き 73mm 以上
※必ず付属の電線ボックスを取り付けてください。



ボックス取付

スイッチから電線ボックスを取外し 66.7mm ピッチのガイド穴に取り付けねじ（市販）を通して、天井に取付けてください。



適合ボックス
JIS C 8340 に該当する
取付ピッチ 66.7mm・開口部φ70 の
丸穴カバーと組合せて
深さの合計が 64mm 以上になる
ボックスに適合します。

天井裏に断熱材がある場合

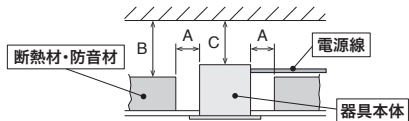
マット工法

ボックスレス工事での施工はできません。
必ず市販のボックスを使用して取り付けてください。

ブローイング工法

・電気配線は断熱材/防音材の上側になるように配線してください。

A: 器具から断熱材/防音材までの距離は 10cm 以上離す
B: 断熱材/防音材の上側は最低 20cm 以上の空間が必要
C: 造営材と器具上部の間は最低 10cm 以上の空間が必要

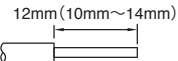


警告 この表示の欄は「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。

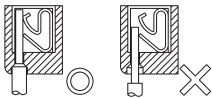
適合電線

－φ1.6、φ2.0mm の銅単線専用

－曲がった電線、より線は使用しない



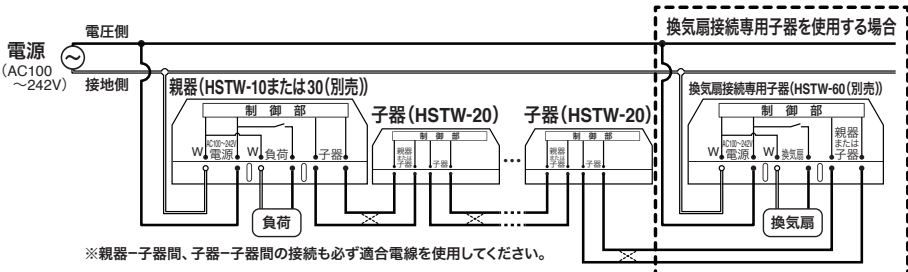
結線時は、電線を奥まで確実に差込んでください。



感熱センサスイッチの配線方法

警告 この表示の欄は「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。

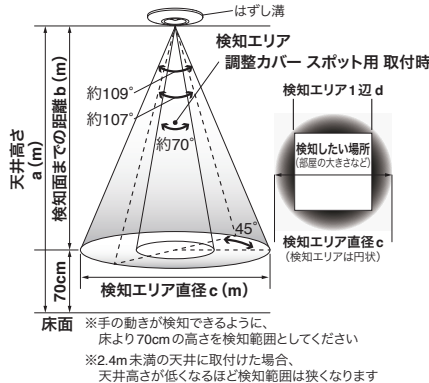
－「子器用」端子に直接 AC 電源を接続しない



・親器 (HSTW-10 または -30) 1 台につき、子器は 12 台まで
接続できます。(※HSTW-60 は 1 台のみ接続できます)
・親器－子器間の配線距離は合計 150m 以内にしてください。
・子器への接続は極性がありません。

感熱センサスイッチの検知エリアの調整について

検知エリアイメージ



検知エリアの目安

検知エリアはおおよその範囲を示しています。
検知したい場所が感熱センサスイッチの検知エリアに入るよう
取付けてください。

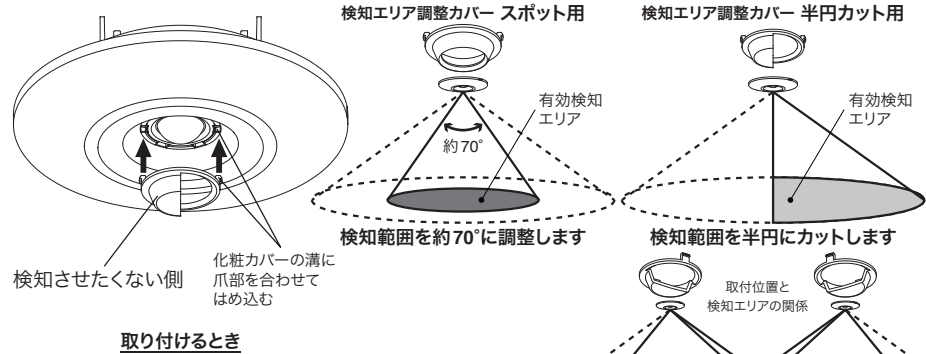
天井高さ a (m)	天井から 検知面までの距離 b (m)	検知エリア調整カバー なし 約 107°～109°		検知エリア調整カバー スポット用 あり 約 70°	
		直径 c (m)	一辺 d (m)	直径 c (m)	一辺 d (m)
2.4	1.7	4.6～4.8	3.2～3.4	2.4	1.7
2.7	2.0	5.4～5.6	3.8～4.0	2.8	2.0
3.0	2.3	6.2～6.4	4.4～4.6	3.2	2.3
3.2	2.5	6.7～7.0	4.8～5.0	3.5	2.5
4.2	3.5	9.4～9.8	6.7～6.9	4.9	3.5
5.7	5.0	—	—	7.0	5.0

機器本体のはずし溝に対して、検知範囲が水平/垂直方向へわずかに広がっています。
赤外線による検知の特性上、室温と人の体温の差が大きい冬場などは、上記範囲外でも検知動作を行う場合があります。

天井から検知面までの距離が 3.5m～5.0m の範囲は、周辺にかけて感度が鈍くなります。確実に人を検知する中心部分（直径 7m 以下）が検知エリアになるよう設置してください。エリア周辺の感度が鈍い部分は、検知エリア調整カバーを取付けて検知しないようにしてください。

検知エリアの調整

・検知させない範囲を設ける場合は、本体の溝に検知エリア調整カバー（付属品）の爪部を合わせて取付けてください。
・検知エリア調整カバーは 60°ずつ取付位置を変更できます。半円カット用をご使用の場合、検知させない部分を覆うようにカバーを取付けてください。



施工後の安全点検と確認

- ☐ 電線は奥まで差し込まれている
- ☐ 検知レンズに汚れはない（汚れている場合は柔らかい乾いた布で傷をつけないように清掃する）
- ☐ 検知エリアの調整および動作確認が完了している

製品仕様

検知方式	赤外線レベル変化感知式
定格電圧	DC12V（専用親器からの給電に限る）
検知範囲（周囲温度 5～35℃時）	検知高さ 3.5m のときφ約 9.6～9.8m 検知高さ 5.0m のときφ約 7.0m
検知対象	人間の通常歩行速度（約 4km/h）
接続可能感熱センサスイッチ親器	HSTW-10/HSTW-30
推奨使用周囲温度	0～40℃（検知可能範囲は周囲温度 5～35℃で被検知対象と周囲温度の差が 3℃以上）
付属品	施工・取扱説明書×1、検知エリア調整カバー（スポット用×1、半円カット用×1）

神保電器株式会社

札幌：(011) 768-8666 仙台：(022) 287-1095 東京：(03) 5705-7392
名古屋：(052) 982-8370 大阪：(06) 6457-2931 福岡：(092) 408-7724